

## 平成 25 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指 導	題 名	県北地域における無側枝性ギク(露地栽培)の窒素施肥量	
[要約] 県北地域における無側枝性ギク露地栽培の適正窒素成分量は、9月咲き品種は6~10kg/10a、8月咲き品種は「笑の潮」12~14kg/10a、「笑の香」、「笑の想」8~10kg/10aである。				
キーワード	無側枝性ギク	施肥量		県北農業研究所 園芸研究室

## 1 背景とねらい

無側枝性ギクは県北地域を中心に徐々に作付け導入されてきているが、本格的な栽培は始まったばかりで、県内での栽培法は定まっていない。そこで、栽培面積の多い9月咲き品種を中心に施肥量、成長調節剤処理技術、母株管理などの栽培法を検討してきたが、現在の主な品種、栽植密度において切り花の規格を確保できる施肥量について知見が得られたのでとりまとめる。

【平成 24 年度試験研究を要望された課題「無側枝性ぎくを主体とした輪ぎく栽培技術体系の確立」(二戸農業改良普及センター)、「一輪菊「芽なし菊」の栽培技術の確立に関して」(JA 全農いわて)】

## 2 成果の内容

- (1) 県北地域における無側枝性ギク露地栽培の適正窒素成分量は次のとおりである(図 1)。

開花期	品種名	適正窒素成分量
9 月	笑王、笑の旭、笑の舞	6~10kg/10a
8 月	笑の潮	12~14kg/10a
	笑の香、笑の想	8~10kg/10a

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本試験は仕立て本数 4 万本/10a(株間 10cm、3 本/株仕立て、通路 75cm、畝巾 75cm、条間 30cm、2 条植え、黒マルチ栽培)で行った。
- (2) 出荷規格では調製重の上限が設定されていないが、現地では過剰施肥による大型化が問題となっているので、本試験では実際の出荷状況を考慮して調製重に上限を設け、これを越えたものを規格外(調製重超過)とした。
- (3) 「笑の潮」のように切花長を得にくい品種は、施肥量を増やすと切花長が長くなり上位規格率が上がるが、規格外(調製重超過)も増えるので適正施肥量の範囲内とすること(図 1、表 2)。
- (4) 施肥量が増加すると、調製重、最上位葉長などは増加傾向にあるが、奇形率、採花盛期の違いは判然としない(表 1、2、図 2)。
- (5) 本試験の施肥には CDU たまご化成(15-15-15)を用い窒素、リン酸、カリ等量とした。また、牛ふん稲わら堆肥(現物あたり窒素 0.86%、リン酸 0.89%、カリ 1.06%)2 トン/10a を併用した。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県北地域、営農指導員および農業普及指導員
- (2) 期待する活用効果 無側枝性ギク安定生産への活用

## 5 当該事項に係る試験研究課題

- (H24-13) 県北地域における無側枝性ギクの栽培技術体系の確立  
(1000) 8~9月咲き無側枝性ギクの栽培技術体系の確立

## 6 研究担当者

鹿糠美雪

## 7 参考資料・文献

### 8 試験成績の概要 (具体的なデータ)

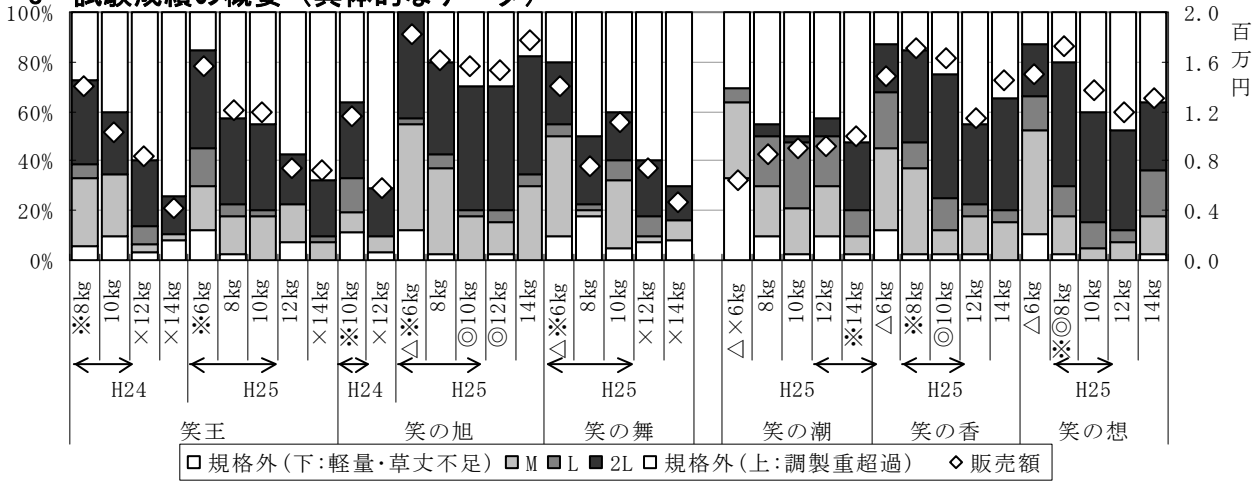


図1 出荷規格割合と10aあたりの販売額(9月咲きおよび8月咲き品種)

以下の区に印と適正窒素量に矢印を付記した。※:販売額の多い区(平成25年単価、M~2L規格出荷として試算)、◎:2L率の高い区(2L規格が40%以上)、×:規格外の多い区(調製重超過60%以上または軽量・草丈不足30%以上)、△:下位等級が多い区(M規格以下が40%以上)。※、◎をプラス、×、△をマイナスとして判断した。

#### 注) 出荷規格

規格	2L	L	M
草丈(cm)	90	80	70
花首長(cm以内)	5	6	6
調製重(g以上)	65	55	—
備考	65	55	45
調製重(g)が右の範囲外 の時に規格外とした。	80	70	60

表1 9月咲き品種収穫時調査

	平成24年					平成25年					
	切花長 (cm)	調製重 (g)	最上位 葉長 (cm)	摘蕾・ 摘枝数	奇形 (%)	切花長 (cm)	調製重 (g)	最上位 葉長 (cm)	摘蕾・ 摘枝数	奇形 (%)	
笑 王	6kg					138.8	67.3	5.4	2.3	3	
	8kg	147.3	72.9	4.8	2.9	0	140.4	77.1	5.9	2.5	12
	10kg	139.5	73.3	5.6	2.9	2	145.3	81.8	6.1	2.3	14
	12kg	134.8	92.8	4.9	3.4	14	145.5	82.0	6.3	2.6	2
	14kg	135.1	95.2	5.8	4.6	9	146.0	87.7	6.4	2.3	9
笑の旭	6kg					137.8	62.0	7.7	5.8	1	
	8kg					141.0	69.5	8.1	5.1	1	
	10kg	134.8	72.8	7.9	7.3	0	141.2	74.6	8.7	5.6	0
	12kg	138.8	85.3	8.2	7.2	3	141.3	75.1	8.4	5.8	3
	14kg						141.3	71.2	8.4	6.8	0
笑の舞	6kg					124.2	69.5	5.9	—	—	
	8kg					120.9	82.2	6.4	—	—	
	10kg					130.1	75.2	6.1	—	—	
	12kg					127.8	84.6	6.3	—	—	
	14kg					127.4	91.4	6.6	—	—	

表2 8月咲き品種収穫時調査

	平成25年					
	切花長 (cm)	調製重 (g)	最上位 葉長 (cm)	摘蕾・ 摘枝数	奇形 (%)	
笑の潮	6kg	77.1	53.7	7.3	6.2	2
	8kg	83.2	63.1	7.9	5.3	3
	10kg	83.2	69.3	8.0	6.1	6
	12kg	81.7	65.1	8.4	7.0	7
	14kg	86.0	73.0	8.5	6.2	2
笑の香	6kg	106.7	62.8	7.1	3.0	0
	8kg	110.9	67.7	7.7	3.1	0
	10kg	110.2	74.3	7.9	2.8	0
	12kg	111.6	77.2	8.2	2.9	0
	14kg	112.5	75.5	8.1	3.0	0
笑の想	6kg	94.7	62.7	7.3	4.9	0
	8kg	97.2	72.7	7.4	5.1	2
	10kg	97.2	76.6	8.3	5.5	2
	12kg	97.8	81.8	8.2	5.4	0
	14kg	93.8	74.9	7.9	5.9	0

注) 調製重は90cm調製重。

摘蕾・摘枝数は圃場で除去した数と、切花調査時に除去した数を合わせた数。

注) 調製重は「笑の潮」80cm調製重、他品種は

90cm調製重。摘蕾・摘枝数は表1と同じ。

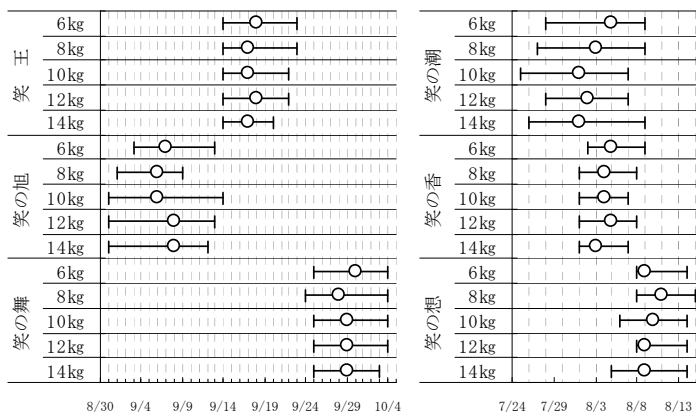


図2 9月咲きおよび8月咲き品種採花時期(平成25年)

注) バーは採花始期~終期、○は盛期を示す

試験区: 10aあたりの施肥量 窒素-リン酸-カリ各成分を6,8,10,12,14kgに設定した。

調査本数: 調査は1区20本、2反復の平均を記載(平成24年「笑王」8kg区のみ1区)。奇形率は試験区全本数を対象に調査した。

供試品種: 平成24年9月咲き品種「笑王」「笑の旭」、平成25年9月咲き品種「笑王」「笑の旭」「笑の舞」、8月咲き品種「笑の潮」「笑の香」「笑の想」  
定植日(摘心日): 定植日(摘心日): 平成24年5月15日(同)、平成25年「笑王」「笑の旭」5月15日(同)、「笑の舞」6月5日(同)、8月咲き品種4月25日(4月30日)

試験場所(作付前土壌): 県北農業研究所23号圃、pH6.3、可給態窒素8.2、可給態リン酸15、交換性カリ25(mg/100g)(平成24年)

収穫と残茎処理に伴う肥料成分の持出量(10aあたり): 9月咲き品種 窒素13kg、リン酸5kg、カリ22kg、8月咲き品種 窒素15kg、リン酸5kg、カリ26kg(平成25年実測値)